

また、木内氏は1990a 彗星 Cernis-Kiuchi-Nakamura に続く2個目の発見である。筆者のリストによると、日本人による彗星の発見は、佐々木哲夫氏の Finlay-Sasaki 彗星の発見以来56個目である。

尚、両氏の発見時刻と発見位置は次の通り。

1990 U.T.	$\alpha$	$\delta$	ml	観測者
7月 13.522	12 <sup>h</sup> 31 <sup>m</sup> 8	+31°15′	8	土屋 清
16.506	12 25 0	+30 15	9	木内鶴彦

国際天文学連合回報 (IAUC) 5053号によると、イタリアの M. V. Zanolta が7月 16.94 U.T. に9等で独立発見していた由である。 香西洋樹 (国立天文台)

#### 第4回天文教育研究会の報告

去る7月30日から8月2日にかけて3泊4日の日程で、兵庫県西はりま天文台において、第4回天文教育研究会が開催された。主催した天文教育普及研究会は、その名の通り、(天文学会が定款に謳いながら努力を怠っている)天文教育と普及を目的としてつくられた、学校・社会教育関係者を中心とする比較的ゆるやかな集まりである(と筆者らは理解している)。会を重ねる毎に参加者の数は増えてきており、今回は全国各地から130名近くの人が集まって合宿を行いながら深夜までホットな議論を行うという、なかなかの盛況ぶりだった(しかも皆、自腹を切って参加しているのだから、その熱心さには頭が下がる)。参加者の内訳は、小学校13、中学校8、高校32、大学・研究機関26、社会教育・同好会など37、天文関係のメーカー9、計125である。中国からの参加者もあり国際的になってきた。また今回の開催地、西はりま天文台は、この4月にオープンした公開天文台施設で、60cmの反射望遠鏡と冷却 CCD カメラや、ワークステーションその他周辺機器も完備している、公開施設としては世界最大級の天文台である。姫路からJR姫新線で1時間ほど内陸に入った兵庫県佐用郡佐用町大撫山山頂(標高約500m)に150人まで宿泊できる施設とともに建設されている。

4日間のプログラムを簡単に紹介しておこう。初日の午後、国立天文台磯部瑠三氏の開会の挨拶の後、大阪教育大学の横尾武夫氏から、今回のメインテーマ『私がめざす天文教育』について簡単な説明があった。そして夕食後、京都大学名誉教授の小暮智一氏による基調講演『私がめざした天文教育』が行われた(タイトルの過去形は誤植という指摘あり)。翌31日は、メインテーマに関して、小・中・高・大・社会教育施設などさまざまな現場で天文教育に携わっている関係者の講演が行われた。もとより“私がめざす天文学”など一人一人異なるはずで、今回の研究会でもその統一を求めたわけではなく、むしろさまざまな異なった意見をぶつけ合って自

分のめざすものを各自見直し止揚させることが狙いだったと思う。その目的が達せられたかどうかは、今後、参加者自身が回答していかなければならないだろう。

その後、2日目、3日目にかけては、全体会や分科会にわかれ、天文教育をめぐるさまざまなテーマに関して40以上の講演がなされた。詳しくは近く発行される集録を参照していただきたい。また2日目の夜には、京都大学の松田卓也氏による講演会が行われた。氏は、例の独特な語り口で時間逆転宇宙の謎について語り、まったくわからないことを何となくわかったような気にさせ(よく考えるとやっぱりわからないんだけど)、100人以上の聴衆を魅了した。最終日の2日には、地区別分科会にわかれて各地区の状況を議論し、最後に全体で、研究会の今後の問題や顕彰制度に関する要請などを話し合い、次回の研究会を1991年8月17日~20日に愛知県で開催することを満場一致で決め、散会となった。

入会申し込みなど研究会に関する問い合わせは、国立天文台天文情報普及室(磯部瑠三氏)まで、また今回の研究会の集録については、西はりま天文台(黒田武彦)まで、次回研究会については、愛知教育大(沢武文)までなるべく手紙で連絡していただきたい。最後になったが、連日の超殺人的なスケジュールの中、今回の研究会の開催に対して並々ならぬ尽力をしていただいた、西はりま天文台の黒田武彦台長以下、天文台スタッフの皆さんには、この場を借りて深く感謝したい。

福江 純・横尾武夫 (大阪教育大)

#### お知らせ

#### 国際会議：銀河と地質に関連する微小天体の力学と進化 (Dynamics and Evolution of Minor Bodies with Galactic and Geological Implication)

標記の研究会が1991年秋に開催されることになりました。

1. 日時：1991年10月28日(月)~11月1日(金)
2. 場所：京都平安会館
3. 内容：銀河と、地球カタストロフィーとの関連において微小天体の力学と進化について議論する。

出席ご希望の方は、下記あてにご連絡下さい。

〒603 京都市北区上賀茂 京都産業大学理学部

井上 猛

Tel. 075-701-2151, Fax. 075-722-2630

SOC: V. C. M Clube LOC: 長谷川一郎

J. Henrard 井上 猛

藪下 信 吉田 淳三

### 国立天文台電波天文学分野研究員公募

研究分野: 電波天文学及び関連分野

募集人員: 2 名程度

任 期: 原則として 2 年 (3 年まで延長をみとめることがあります)

着任時期: 1991 年 4 月以降でなるべく早い時期

待 遇: 教務補佐員としての給与を支給 (詳細は下記にお問い合わせ下さい)

研究場所: 原則として野辺山

応募資格: 大学院修士課程修了またはそれと同等以上

提出書類: 履歴書, 研究計画, 論文リスト (共著である場合はその役割分担) および主要論文の別刷, 希望の研究場所が野辺山でない場合はその理由書 (封筒に「研究員応募書類」と朱記)

提出期限: 1991 年 1 月 7 日 (月) 必着

書類宛先及び問い合わせ先:

〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山

国立天文台野辺山 森本雅樹

Tel. 0267-63-4372

### 宇宙科学研究所教官公募

この度, 下記の要領により, 教官の公募を行いますので, 広く適任者の推薦, 応募を求めます。

公募人員 A: 教授 1 名

B: 助教授 1 名

所属部門 A: 共通基礎研究系 宇宙空間原子物理学部門

B: 惑星研究系 比較惑星学部門

専門分野 A: 宇宙空間における基礎物理過程の研究

宇宙空間で生起している原子, 分子, 固体微粒子等が絡んだ多様な物理, 化学現象の素過程を理論的に研究する。このような研究分野の発展, 育成に指導的役割を果たしていただける方。

現在, 当該部門では, 市川和行助教授, 崎本一博, 市村淳助手らによって原子, 分子の素過程 (光反応, 衝突過程) などの理論的研究が行われています。尚, 所内には, 宇宙圏研究系 (X線, 赤外線), 太陽系プラズマ研究系, 惑星研究系があり, 上記の研究に関連した実験的, 観測的研究が行われています。

B: 飛翔体をもちいた固体惑星科学の実験観測的研究

大学共同利用機関としての本研究所の任務を充分理解し, 当該分野の科学衛星計画 (現在月探査計画が進行中), その他

の共同利用諸計画の遂行に積極的役割を果たす方を希望します。

着任時期 決定後, 出来るだけ早い時期。

提出書類 1) 略歴, 2) 研究歴, 3) 論文リスト及び主要論文別刷, 4) 研究計画書 (自薦の場合), 5) 推薦書 (他薦の場合) 又は本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先 (自薦の場合)。

公募締切 平成 2 年 12 月 5 日

宛 先 〒229 神奈川県相模原市由野台 3-1-1

宇宙科学研究所 所長 西村 純

電話 0427-51-3911 (代表)

問い合わせ

A: 共通基礎研究系主幹 奥田治之

内線 2601

B: 惑星研究系主幹 清水幹夫

内線 2529

その他 選考は宇宙科学研究所運営協議員会議において行います。応募者に適任者がいない場合には決定を保留することがあります。封筒の表に「教授 (助教授) の応募書類在中」と朱記して下さい。

### 名古屋大学理学部物理学教室教官公募

1. 公募人員 助手 1 名

2. 所属部門 天体物理研究室 (A 研)

3. 専門分野 宇宙電波天文学 (実験, 観測)

名古屋大学理学部 4 メートル電波望遠鏡によるミリ波サブミリ波帯星間分子分光観測, 関連する装置の開発に当たる。

4. (1) 着任時期 1991 年 4 月 1 日

(2) 任 期 5 ± 2 年

5. 提出書類 履歴書一通, 研究歴, 着任後の研究に対する抱負, 論文リスト, 主要論文別刷, 各 2 部。推薦書または本人について所見を求めうる人。

6. 公募締切 1990 年 12 月 25 日 (火)

7. (1) 宛先 〒464-01 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学部物理学教室

主任 伊藤憲昭

(2) 公募に関する問い合わせ先 同教室

電話番号 052-781-5111

福井康雄 (内線 6404)

8. その他 ○封筒に“天体物理研究室”応募書類在中と朱書の上, 書留とすること。

○適任者のいない場合には決定を保留することがあります。

### パブリ Tex/LaTex 化のその後について

日本天文学会欧文報告 42 巻より印刷行程に Tex を導入したことについてはすでにお知らせしました。当初、編集および印刷所双方の不慣れのために出版のおくれなどが出て会員諸氏にご迷惑をおかけしましたが、その後は次第にスムーズに運ぶようになりました。しかしまだ改善の余地もあり編集として努力していくつもりです。で一層のご協力をいただけると幸いです。

さて PASJ に投稿するにあたっては次のような点にご留意いただけるとありがたいと思います。

① Tex 原稿： 現在印刷所では LaTeX を使用しており、プレーン Tex の原稿は印刷所でコンバージョンを行っています。なるべくシンプルに書かれた原稿（ディスク）を歓迎いたします。

② LaTeX 原稿： そのまま印刷にかけられますが、PASJ のスタイルにあわせるため印刷所で必要な書き換えをおこなっています。学会では PASJ スタイルのマクロを検討していますが、現在のところ予備的なものを E-mail にて配布可能です。必要な方は担当理事（祖父江, y. sofue @ tansei. cc. u-tokyo. ac. jp）宛申し込んで下さい。またフロッピーディスクでも供給できますので必要な方はその旨お申込み下さい。

③ その他のコンピューター出力原稿： 現在のところプリント原稿と電子媒体を併用しています。種々のワープロ機能の向上にともなってファイル内容が次第に複雑化しているため、LaTeX に変換する煩雑さと不測のエラーの対処についてやす労力が予想外に大きくなってきており、プリントから新規にファイルをつくる方が経済的な場合が増えていきます。

よろしくご協力下さるようお願いいたします。

1990年8月 日本天文学会欧文報告編集理事

祖父江義明

### 合同シンポジウム——第三回理論懇シンポジウム&総研(A) 超高速計算機による数値的天文学の構築

1990年12月25日(火)~27日(木)

於 国立天文台(三鷹)

理論懇テーマ

- ① 星——太陽系形成
- ② 磁場
- ③ 銀河構造と進化
- ④ 銀河形成

ポスター発表は分野を問わず募集致します。

総研(A) 超高速計算機天文学は広く講演を募集致します。

天体観測専門誌

# 天文ガイド

12月号 定価520円(税込み) 千91 11月5日発売

NEW FACE TEST REPORT  
国際光器の冷却CCD

12月より6年ぶり  
ガリレオ衛星の食  
観察法と写真の撮り方

コニカ新フィルムのテスト  
月面編

レビー彗星追流法

■11月の星空/月・惑星・星雲・星団/天文現象観測資料■天文計算プログラム■現代の太陽系天文学■天体写真テクニック■読者の天体写真(カラー、黒白)■観測ガイド…他情報満載

●天体観測基礎知識

# アストロノミー

L.J.Kelsey 他著 予定価2200円 近刊予告

アメリカで出版された「天文学の練習と実験」の邦訳です。43の天文課題のそれぞれについて、目標・目的、練習問題が示されています。天文について基礎的なことを確認し、実験、観測することを通して、知識を身につけられるように構成。

誠文堂新光社 東京都千代田区神田錦町1-5

電03(292)1221 振替東京7-128

ます。

申込締切 11 月末日  
世話人 野本憲一, 松田卓也, 梅村雅之  
観山正見

問い合わせ先

国立天文台理論天文学研究所  
〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
梅村雅之  
TEL. 0422-41-3752 FAX. 0422-41-3746

.....  
**書 評**  
.....

「双眼鏡で星空ウォッチング」

村山定男 監修・白尾元理 著  
(丸善 2060 円)

星空の観望ガイドと銘打った本は数多く出版されてきていたが、それはいままで「星座」紹介を中心にした肉眼用のものと、星雲・星団を対象にした望遠鏡用のものとの大別される。実は、どちらのものも中をよく読む

と、気ままで手軽な星空観望には双眼鏡が適していると書いてあるし、天文雑誌などでも同様の趣旨が宣伝されているのだが、正面切って「双眼鏡のための」星空観望ガイドが本になったことは無かった。

本書は、双眼鏡を使って観望を楽しめる天体(月, 惑星, 星雲, 星団など)について、探し方を示した星図と天体写真を併用して解説したものである。標準的な双眼鏡の視野である7度の円を、それぞれの星図や写真に書き入れ、初心者でも天体を見つけやすいように工夫がされている。そして、なによりすべての天体について、美しいカラー写真が掲載されているのが魅力で、写真集としても楽しめる。著者は、アマチュアながら惑星地質学を独自に研究されている方で、天体についての解説も簡潔にして明快である。ただ、星雲などは専門外のためか、「惑星状星雲は、超新星が爆発した残骸と考えられる」といった明らかに誤った記述が散見されるのは残念で、改版時にぜひ訂正していただきたい。昨今のアウトドアブームで、双眼鏡の売れ行きは良いらしいが、本書はそういったアウトドア派には、もってこいの星空案内書といえるだろう。カラー写真が多いぶん、小型の本にしては値段が高いが、会員の方で双眼鏡をお持ちの方にもおすすめしたい本である。(渡部潤一)

◇ 11 月の天文暦 ◇

日	時	分	記	事
2	0	15	金星	外合
3	6	48	望	
4	8	08	月	最近
5	16	02	木星	西距
9	22	02	下弦	
10	18	04	冥王星	合
17	18	05	朔	
19	11	56	月	最遠
20	12	58	火星	地球最近
25	22	12	上弦	
28	5	33	火星	衝
30	21	57	木星	留

1990 年 8 月の太陽黒点 (g, f) (国立天文台)

1	17,	165	11	16,	123	21	21,	265
2	19,	202	12	14,	76	22	17,	256
3	13,	121	13	20,	180	23	15,	210
4	16,	108	14	19,	281	24	19,	280
5	10,	66	15	21,	276	25	14,	222
6	11,	129	16	18,	349	26	14,	184
7	12,	129	17	20,	322	27	11,	211
8	14,	178	18	20,	171	28	12,	196
9	—,	—	19	19,	194	29	13,	196
10	—,	—	20	19,	258	30	17,	206
(相対数月平均値: 214.10)						31	15,	134

◇ 11 月の日月惑星運行図 ◇

